

秋も大分深まってきました。今年は、いつになく私の住んでいる家の周辺でも、きれいに色づいている柿やケヤキ、桜などの木々を見かけます。確か去年は、茶色く枯れて落葉していたなと思うのですが。自然のちょっとした条件で、同じ場所にある同じ木でもこのような違いがでるのかと驚いています。そして、同じ子どもでも環境によってまったく違った成長の仕方をするのだらうなとあらぬ方向に連想が發展しました。多分、「ドキュメント高校中退—いま、貧困が生まれる場所」という、暗澹たる気持ちになる本を読んだばかりだからかなのだと思いますが・・・



青少年サポートプラザの庭の、みごとに紅葉した柿の木

2009年

11・12月の練習計画

横浜室内合唱団

時刻	月日	11月7日(土)	11月14日(土)	11月21日(土)	11月28日(土)	12月5日(土)	12月12日(土)	12月19日(土)	12月26日(土)
16:30~ 16:40		体ほぐし・発声練習 体の力を抜き、腹の支えを感じて声を出しましょう。							
		のどの奥をしっかりひろげ、力を抜いて声をだしましょう。							
		「え」「い」の母音の発声に気をつけて声をだしましょう。							
16:40~ 17:25	選曲のための 新しい歌	「蔵王」より 「投げよう林檎 を」「苔の花」 の譜読み	「蔵王」より 「早春」「旅」 の譜読み	「ふるさとの青 い空」より「は と笛」と「浜辺 の歌」の譜読 み	「季節のたよ り」より「蟋 蟀」(「松径」 の譜読み	「太海にて」 より「春のう た」「桃いろ の貝」の譜読 み	「雨」より 「雨の日に見 る」「武蔵野の 雨」	コダーイの 「ケセンテ」 アルカデルト の「アヴェマ リア」	今まで練習し てきた曲の中 から選んで歌 いましょう
17:30~ 18:00	コーラルフェ ストに向け「ふ さとの青い空」 「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の仕上げ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の歌いこみ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の歌いこみ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の歌いこみ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の歌いこみ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の仕上げ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の仕上げ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の仕上げ	「菜の花に埋も れて」「みかづ きのゆりかご」 等の仕上げ
18:00~ 18:30	演奏会に向け て既習曲の歌 いこみ	「風が」「ある日 ひとつの」そ の他の曲	「ララルー」「若 き日の」とそ の他の曲	「淡月梨花の 歌」「びわ」と その他の曲	「水上」「秋の 灯ともし頃」と その他の曲	「花季」とその 他の曲	「アヴェベルム コルプス」 「夜の歌」と その他の曲	いろいろな歌 を歌いましょう	いろいろな歌 を歌いましょう
目標		今までのレパートリーから新しく取り上げた曲の譜読みを行い演奏会での曲を決めましょう。							
		「菜の花に埋もれて」「みかづきのゆりかご」を歌いこみと細部の仕上げを行いましょう。							
		「菜の花に埋もれて」「みかづきのゆりかご」を暗譜で歌えるようにしましょう。							
		演奏会で歌うことになった曲の歌いこみをして、音程確かに歌えるようにしましょう。							

1月6日（金）、7日（土）、8日（日）の3日間、私たちは長崎市とハウステンボス、それに朝倉さん夫妻の住む西海市崎戸町を訪れた。合唱団の練習を休むことになって、申し訳なかったのですが。

長崎市内は、長崎電気軌道（市電）を使って、ほぼ全域を見学できた。和風と中国風が垣間見える洋館群がおさまっているグラバー園からは、市内がだいたい眺望できる。坂の街長崎のすばらしい景色が印象に残った。また、原爆によって全壊し、再建された浦上天主堂では、当時の破壊された像がその惨状を想像させた。平和公園は当時刑務所で、職員と服役者全員が死んだと書いてあった。その礎石が残っていた。平和公園の主旨に賛同した世界各国（共産圏が多かった。）からのモニュメントが設置されていたが、全世界からの核廃絶への道のりの遠さを思うと、虚しさも覚えた。昼食は、山口さんお勧めの江山楼の太麺皿うどんを味わった。夜は夜景の名所、稲佐山で斜面を彩る立体的な夜景を見ながら、長崎発祥と言われているトルコライスを食べた。これは、老人にはくどかった。

明けて7日はハウステンボスへ。山口さんからお借りした本に拠れば、ハウステンボスは、建築家・池田武邦氏が荒れた土地に森を再生し「自然との共存」する街づくりに挑戦してつくられエコシティーだ。モデルは、オランダと江戸で、水辺の環境に力が入れられていた。実際、ある展示館では、テンボス内の水回りについての説明があって、その通りだと思った。元々風車は風を利用しているから、エコを実現していたと言える。その他、ゴミ問題でも先進的な取り組みがされている。池田武邦氏の理想が、不況の波に押し潰されなければよいがと思いつつ、土曜日なのにまばらな観光客の静かなハウステンボスでオランダ気分浸った。

ここで、朝倉さんと落ち合った。朝倉さんの地元、崎戸に向かい、朝倉さんの奥さんのお迎えを受け、その岬で夕日を待った。私たちの威力だろうか。薄雲の中に太陽が潤みながら沈んでいった。その夜は、朝倉さんと、伊勢エビなど新鮮な海の幸、それに朝倉さんお勧めの崎戸の焼酎で夜遅くまで呑み話し込んだ。泊まった宿は、かつての網元で文学に造詣が深い主人が始めた民宿だった。私たちの部屋の名前は啄木で、啄木の短歌に囲まれて眠りについた。

翌8日、漁村の朝は早い。東京より50分も日の出が遅いの、朝の6時、暗闇の中に大きな鐘の音が響き、起こされた。朝の散歩をと思ったが、暗いので、夜が明けるのを待つて外に出た。丁度朝日が昇るのに遭遇し、気持ちの良い1日のスタートだった。しかし、朝倉さんは、その鐘の音にもめげず眠れるらしい。朝倉さんの案内で、隠れキリシタンの里、外海（そとめ）を中心に見学した。外海民俗資料館で、悲惨な迫害にもキリスト教の信仰を捨てなかった人々の歴史を見て、強い感動を覚えた。明治になって赴任したド・ロ神父がこの村民のために尽力し、医師であったが、漁業加工、織物、麵作りなどの産業を興したことを、ド・ロ神父記念館で知った。この記念館では、その神父の時代のオルガンが修復されて展示してあり、特別に許可をいただいて、オルガンを弾きながら3人で賛美歌を歌った。次に建築にも造詣が深かったド・ロ神父が手がけた大野教会を訪ねた。石造りで見ると堅牢な素朴な教会だった。



朝倉さんに、1日中歴史を語りながら案内をして頂いた。海の眺めも大変すばらしく、眺めていると吸い込まれていく気分、悠久の時を感じた。朝倉さんがその海に惹かれ崎戸に帰られた訳もわかったような気がした。良い思い出をつくってくださった朝倉さん夫妻の優しく温かい心を感じることができた。これまでも団の人々がここを訪れた意味がわかる。

飛行機は速い。18時55分に長崎を離陸すると、21時30分には自宅にいて、現実に戻されていた。

